



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

2011年8月25日/パリ

本書は、英語によるCrédit Agricole SA 2011年第2四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2011年上半期及び第2四半期業績:

コミットメント2014の目標に沿った堅調な業績結果

- **力強い業績: 強固なグループ内結束**
 - **費用の軽減と効率化**
 - **財務体質の強化**

クレディ・アグリコル・グループ*

2011年上半期

純利益グループ帰属分: 24億800万ユーロ、前年同期比30.4%増加

2011年第2四半期

純利益グループ帰属分: 8億8,100万ユーロ、前年同期比1.8%減少

ティア1レシオ: 10.5% コア・ティア1レシオ: 9.1%

* クレディ・アグリコル S.A.及び地域銀行の100%

クレディ・アグリコル S.A.

2011年上半期

純利益グループ帰属分: 13億3,900万ユーロ、前年同期比57.7%増加

ティア1レシオ: 11.0% コア・ティア1レシオ: 8.9%

2011年第2四半期

収益: 前年同期比1.1%増加、同一条件及び一定の為替レートの下で1.4%増加

営業総利益: 前年同期比6.6%増加、同一条件及び一定の為替レートの下で8.2%増加

リスク関連費用: 前年同期比5.8%減少*

ギリシャ国債減損費用: -2億200万ユーロ (税引前)

純利益グループ帰属分: 3億3,900万ユーロ、前年同期比10.6%減少

*ギリシャ国債減損費用控除前

クレディ・アグリコル・グループ

2011年上半期のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、2010年上半期に対し30.4%増の24億800万ユーロに達しました。

第2四半期のみでは、純利益グループ帰属分は8億8,100万ユーロに達し、2010年同四半期比横ばいとなりました(1.8%低下)。この数字には、欧州経済危機の悪化によって影響を受けたギリシャの国債及びグループ子会社であるエンポリキの業績が含まれます。また、当グループの全ての事業部門の業績を反映しています。

収益は四半期としては過去最高水準の91億4,200万ユーロに達しました。これは特に、当グループの収益の61%と営業総利益の56%を生み出したリテール・バンキング部門によって牽引されました。地域銀行では特に力強い事業活動が行われ、新規預金口座開設が増し、ローン残高と預金残高は同程度の増加(5%)となりました。

営業総利益は5.9%増加し、これまでの最高水準の38億2,400万ユーロに達し、運営効率が引き続き改善されていることが確認できました。コスト比率は、60.0%から58.2%に低下しました。

リスク関連費用の13.1%の上昇は、ギリシャ支援計画の影響、並びに地域銀行とCIB部門で引当金が増えたことを反映しています。

ソルベンシーに関しては、クレディ・アグリコル・グループのコア・ティア1レシオは、当グループの収益力を反映して9.1%に上昇しました。

クレディ・アグリコルSA.

2011年第2四半期及び上半期の業績検討のために、2011年8月24日にジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルSA.の取締役会が行われました。

2011年第2四半期の純利益グループ帰属分は、3億3,900万ユーロ(2010年第2四半期は3億7,900万ユーロ)で、2011年上半期は13億3,900万ユーロ(2010年上半期は8億4,900万ユーロ)でした。

クレディ・アグリコルSA.の会長であるジャン・マリ・サンデルは、これらの業績結果は、エンポリキとギリシャ支援策の偶発的な影響があったにもかかわらず、基本的には順調な業績推移を示していると述べました。

- 全部門の業績は引き続き良好で、四半期の収益(55億3,100万ユーロ)と営業総利益(22億100万ユーロ)は記録的な最高水準に達しました。
- リスク費用の減少を確認しました(9億2,300万ユーロ、ギリシャ支援計画への参加を除いて5.8%減少)。
- 欧州諸国が7月に合意したギリシャへの財政支援計画の影響(税引後のリスク関連費用は-1億4,600万ユーロ)を受けました。
- ギリシャの財政状態に関連して、エンポリキに関する経営的措置の影響(エンポリキへの出資の減損費用3億5,900万ユーロと子会社の繰延税の減損費用-1億4,800万ユーロ)がありました。

第2四半期には、クレディ・アグリコルSA.の業績は引き続き第1四半期と同じ傾向を辿りました。CEOのジャン・ポール・シフレは、ギリシャ財政危機の影響にもかかわらず、これらの業績の強さを強調しました。この業績は、3月に発表された中期経営戦略「2014年コミットメント」に公表されている目標を確認するものです。

様々な分野に広がる当グループの事業部門は、以下のような状況にも拘らず、引き続き力強い事業活動を報告しています。それは、先ずマクロ経済が脆弱な環境にあること、西側諸国の景気回復が遅いこと、様々な国々が財政債務問題を解決する国力について大きな不安をいげていること、そして、マーケットは未だ先行き不安定でボラタイルである、という状況です。

フランスのリテール・バンキング部門では、上記で述べられたように2011年上半期には地域銀行が前年同期比で力強い事業活動を展開しました。LCLの預金高は増加し(8.8%増)、その一方で、新規貸出し、特に住宅建設のための資金貸付ではその推進力が維持されました。

2011年上半期の国際リテール・バンキング部門では、前年同期比で収益は4.7%増加、営業総利益は11.2%増加しました。

専門金融サービス部門の収益は、厳しい費用管理と運営効率の改善によって、ある程度の増加を達成しました。

資産運用、保険及びプライベート・バンキングの事業部門は、資金流入が純増額で大きくプラスになったことも含めて、販売実績が伸びました。資産運用は長期保有型運用商品で65億ユーロの資金流入があり、マネー・マーケットからの流出とのバランスを維持することができました。一方プライベート・バンキング部門と保険部門への資金流入は純増額でそれぞれ23億ユーロ、33億ユーロでした。

法人営業及び投資銀行部門(CA-CIB)では、収益が極めて高かった2010年上半期に比べて、僅かな減少が見られました(1.6%減)。ファイナンス事業部門は、主としてストラクチャード・ファイナンスの業績によって2010年上半期比で収益は同水準を維持しました(1.7%減)。資本市場部門は、債券市場と株式市場が悪化したにもかかわらず、ある程度の水準を維持することができました。

クレディ・アグリコルS.A.は、市場の変動要因が高い中でも、資金流動性の面で安定しています。これは信用格付けの高さと支店ネットワーク及び世界規模の25の財務拠点(フランスを除く)における資金獲得によるものです。年間の中長期の資本市場における債券発行計画(220億ユーロ)の90%は、8月の初めまでに達成されました。2011年7月31日現在、即時利用可能な流動性準備金は1,200億ユーロを上回りました。

2011年6月30日現在のティア1自己資本比率は40ベース・ポイント上昇し、11%になりました。2011年6月末現在のコア・ティア1・レシオは50ベース・ポイント上昇し、8.9%でした。この上昇は、上半期のリスク・ウエイト資産と収益力が安定していたことによります。

当グループは、過去10年間にわたり社会面、環境面の責任において、進歩的なアプローチを採用してきました。クレディ・アグリコルS.A.の株式が、3つの主な社会的責任株価指数(SRI)に含まれていることにも、企業責任投資が進んでいることが反映されています。3つの主要な株価指数とは、ASPIユーロゾーン(2004年以降)、FTSE4Good(2005年以降)、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ指標(DJSI、2008年以降。DJSI Stoxxは2008年以降、DJSI Worldは2009年以降)です。

さらに、クレディ・アグリコルは、カナダの雑誌コーポレート・ナイトズ(Corporate Knights)において2011年度の最も社会的責任のあるフランスの企業100社の中で、第1位と賞されました。また英国の非営利研究機関(NGO)である環境投資機構(Environmental Investment Organisation)により発表された「2011年度欧州の大企業上位300社の温室効果ガス排出量評価」の中では、フランス国内で第2位(欧州で第12位)となりました。

2011年第2四半期にクレディ・アグリコルS.A.は、コミットメント2014で発表されたように社会的、環境的責任に関するプログラムであるFreDに着手しました。FreDは、社会的、環境的責任の3つの柱(経済、社会、環境)に基づいたプログラムであり、従業員のコミットメントに対し報酬を与えるものです。2011年から、各企業はその意図と目的を報告することが義務づけられ、これらは外部の監査人によって査定と評価を受けることとなります。FreDにより、クレディ・アグリコルS.A.グループの社会的実績の指標を計算することが可能になります、その指標は、役員の変動型報酬に反映されます。2011年は、このプログラムの試験的実施の年であり、FreDは以下の10社に適用されます:クレディ・アグリコルS.A.、LCL、アムンディ、クレディ・アグリコルCIB、CA-CF、CAアシュアランス、CAプライベート・バンキング、CAL&F、CACEIS及びカリパルマ。

¹ 継続事業の負債とローン・ヘッジの再評価調整後

決算スケジュール

2011年 11月 10日	2011年度第3四半期発表
2012年 2月 23日	2011年度決算発表
2012年 5月 11日	2012年度第1四半期決算発表
2012年 8月 28日	2012年度上半期決算発表
2012年 11月 9日	2012年度第3四半期決算発表

クレディ・アグリコルS.A.連結決算

(€m)	Q2-11	Q2-10	Change Q2/Q2	H1-11	H1-10	Change H1/H1
Revenues	5,531	5,469	+1.1%	10,835	10,293	+5.3%
Operating expenses	(3,330)	(3,405)	(2.2%)	(6,606)	(6,567)	+0.6%
Gross operating income	2,201	2,064	+6.6%	4,229	3,726	+13.5%
Cost of risk	(1,125)	(980)	+14.8%	(1,947)	(2,054)	(5.2%)
Operating income	1,076	1,084	(0.7%)	2,282	1,672	+36.5%
Equity affiliates	269	284	(5.3%)	710	709	+0.1%
Net income on other assets and change in value of goodwill	(367)	(414)	(11.4%)	(366)	(577)	(36.6%)
Tax	(587)	(459)	+27.9%	(1,107)	(729)	+51.9%
Net income (after tax) from discontinued operations	17	3	n/a	13	7	+85.7%
Net income	408	498	(18.1%)	1,532	1,082	+41.6%
Net income Group share	339	379	(10.6%)	1,339	849	+57.7%

2011年上半期の**総収入**は、前年同期比で5.3%増加し、108億ユーロの記録的な最高水準に達しました。これは、今なお低迷している経済環境の中、全ての事業部門の推進力とその回復力を反映しています。

営業費用は、2010年上半期から2011年上半期までの1年間、0.6%の増加に抑えることができました。同一条件及び一定の為替レートの下では、その期間の費用は横ばいでした。2011年上半期のコスト比率は1年間では2.8%の減少の61.0%、2011年第2四半期のみでは60.2%でした。

2011年上半期の**営業総利益**は13.5%増の42億ユーロでした。

上半期の**リスク関連費用**は、2010年6月比で5.2%減の19億ユーロとなりました。これは、専門金融サービス部門以外の全ての事業部門でのリスク関連費用の減少傾向を反映しています。保険部門も、ギリシャの支援計画への参加に関連する1億3,100万ユーロの引当金を認識しました。2011年上半期のリスク関連費用は、貸付ローン残高の69ベース・ポイントに相当しますが、1年前は85ベース・ポイントに相当しました。また、2011年上半期のリスク関連費用は、営業総利益の46%に相当しましたが、前年度は営業総利益の55%に相当しました。2011年上半期には、リスク関連費用は主に国際リテール・バンキングと専門金融サービスに集中しました。

不良債権(顧客とのリース・ファイナンス取引を除く)は218億ユーロに達し、顧客及び銀行間の貸付ローン全体の4.5%でした。2010年12月31日現在は、全体の4.3%でした。これらの不良債権に対する特定引当金のカバー率は、2010年12月31日現在の50.3%に対し、51.2%でした。包括引当金を含めた不良債権に対するカバー率は66.8%で、2010年12月末現在よりも1ポイント上昇しました。

2011年上半期の**関連会社の収益**は、前年同期比で横ばいの7億1,000万ユーロとなりました。これは地域銀行の収益の堅調な伸びを反映しています(前年同期比11.7%増)。

2011年上半期の**その他の資産の純利益、及び出資金の変動**は、2010年上半期のマイナスの寄与が5億7,700万ユーロに対し、マイナス3億6,600万ユーロでした。これは主に2011年第2四半期のエンポリキへの出資3億5,900万ユーロの評価損計上によるものです。2010年上半期の寄与分には、上半期にインテサ・サンパオロの0.8%を売却したマイナス影響額(-1億5,900万ユーロ)と、第2四半期にエンポリキへの出資減損部分(-4億1,800万ユーロ)が含まれていました。

全体では、2011年上半期のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分は、13億3,900万ユーロに達し、前年同期比で57.7%増加しました。2011年ギリシャに関連する経常外項目の影響は全体で6億4,000万ユーロに達しました(下表を参照)。

クレディ・アグリコル S.A.は、第2四半期のみの総収入では 55 億ユーロに達し、創立以来の記録的なレベルを達成しました。2011 年第2四半期の営業費用は 2010 年第2四半期比で 2.2%減少し、22 億 100 万ユーロの営業総利益を記録し(前年同期比 6.6%増)、コスト比率も 60.2%を記録しました。リスク関連費用は、2010 年第2四半期比で 14.8%増加しました。この増加はクレディ・アグリコル S.A.がギリシャの支援計画に参加したこと、ギリシャの子会社に対し引当金積み増しを継続した(2011 年第2四半期は 2 億 7,700 万ユーロ)ことが要因です。エンポリキの営業権の評価損 3 億 5,900 万ユーロを計上後、純利益グループ帰属分は 3 億 3,900 万ユーロに達し、2010 年第2四半期比で 10.6%減少しました。

Greece-related non-recurring impacts in second quarter 2011			
(€m)	Before tax	Net impact	Net impact group share
Impact on cost of risk of support plan to Greece	(202)	(165)	(146)
Of which Emporiki	(71)*		
Of which insurance	(131)		
Impairment of residual Emporiki goodwill	(359)	(359)	(359)
Tax impact of impairment of Emporiki deferred tax assets **	-	(148)	(135)
Total impact			(640)

*ギリシャ財政支援計画として適格なギリシャ国債の総保有額の21%相当の-7,100万ユーロの減損

** 2010 年 12 月 31 日現在、繰延税金資産は 2 億 7,800 万ユーロ

財務状況

クレディ・アグリコルS.A.は、2011年上半期に財務の健全性をさらに強化しました。自己資本比率は、中期経営戦略「コミットメント2014」の目標に沿って着実に上昇を続けました。2011年6月30日現在は、コア・ティア1・レシオは、8.9%で、2011年上半期には50ベース・ポイント上昇しました。同期間のティア1・レシオは40ベース・ポイント増の11.0%でした。

リスク・ウエイト資産の減少と、中核的自己資本の急激な増加がこの改善をもたらしました。2011年6月30日現在、クレディ・アグリコルS.A.のCRDリスク・ウエイト資産は2010年12月31日現在比で33億減少し(-0.9%)、3,684億ユーロとなりました。各ビジネス部門のリスク・ウエイト資産(CCI/CCAリスク・ウエイトを除く)は、59億ユーロ減少(-1.8%)し、主に外国為替の影響によるCA-CIB資産の減少分-38億ユーロが含まれています。尚 CCI/CCAによるリスク・ウエイト資産は、変換保証の実施後は消滅する予定です。控除前のコア・ティア1とティア1の自己資本は、2010年末に比べてそれぞれ2.5%、1.4%上昇しました。この著しい上昇は、2010年の配当支払いの大半を株式配当で実施したことによります。

全体では、クレディ・アグリコルS.A.のCRDレシオは13.0%に達し、2010年12月31日現在に比べ20ベース・ポイント上昇しました。

クレディ・アグリコル・グループのCRDレシオは、2011年6月末現在11.8%、コア・ティア1・レシオは9.1%、ティア1・レシオは10.5%でした。アンフロアーの場合には、これらのレシオはそれぞれ13.8%、10.4%、11.9%に該当します。

長期債券発行によるリファイナンスでは、2011年のプログラム270億ユーロの調達概ね完了済みです。資本市場での直接調達は90%に達し、内各拠点のネットワークを通じて71%が実現しました。全体では、当グループは年間プログラムの86%である233億ユーロを調達しました。平均年限は6.5年で、6ヶ月スワップ・レート・プラス79ベース・ポイントと、競争力のある平均調達コストを達成しました。

市場には依然流動性のリスクがありますが、短期資金のリファイナンスは安定しており、各地で高度で多様化した調達モデルを有効活用しています(フランスを除き、約25の財務拠点をグローバルで運営)。ドル資金調達へのアクセスもアジアや中東で多様化させており、法人顧客による米ドルの長期資金ニーズを常時上回る調達力を確保しています。最後に、米国のMMFを通じての資金調達金額が360億ドル(250億ユーロ)に相当する一方で、利用可能な流動性準備金は、2011年7月31日現在で1,200億ユーロ以上となっています。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1.- クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Net income accounted for at equity (at 25%)	184	+3.9%	411	+7.5%
Change in share of reserves	16	nm	163	+23.6%
Share of income from equity affiliates	200	+9.9%	574	+11.7%
Net income Group share	200	+9.9%	574	+11.7%

クレディ・アグリコル SAの純利益グループ帰属分に対する地域銀行の寄与は、2011 年上半期が 5 億 7,400 万ユーロとなり、2010 年上半期比で 11.7%増加しました。

2011年上半期の地域銀行は、ローンと貸借対表上の預金残高はバランスを保ちながら増加し、堅調な事業推進力を維持しました。新規顧客獲得の努力により、1年間の新規定期預金の口座開設はほぼ2倍に伸びました。クウィクソー(Kwix)は、銀行に関する詳細な情報がなくても、携帯電話或はインターネットを使用して支払い或は資金振替ができる新たなソリューションであり、第2四半期に発売されました。

貸出資産は前年同期比で5.1%拡大し、2011年6月30日現在の残高は2010年12月現在よりも安定しました。地域銀行は、地域経済の融資シェアを更に強化しました。住宅ローンの残高は、前年の同時期よりも住宅購入者にとってより有利な金利が利用できることから、前年同期比で7.0%増加しました。2010年の住宅建設件数は、記録的に高水準にありましたが、2011年はさらに一段と高い水準を維持しました。

顧客預かり資産は、今期中に5%増加した貸借対照表上の預金残高の伸びの堅調な推進力に支えられ、前年同期比で3.9%拡大しました。この目覚ましい業績結果は、貯蓄の流入資金(前年同期比6.2%増加)の伸びに支えられ、預貯金の増加によって牽引されました。逆に、個人の要求払い預金の伸びは低下しました。2011年上半期には証券ビジネスが安定したため、また生命保険が引き続き伸びたことにより、オフバランスシート上の預金残高は増加しました。同期間で、顧客預かり資産はマネー・マーケット・ファンドからの資金流出が続いたことでマイナスの影響を受けました。

この事業推進力によって、2011年上半期の収益は前年同期比で²3.7%増加し、68億4,100万ユーロに達しました(顧客ビジネスの収益は、2011年上半期に2.7%増加し、住宅購入貯蓄プログラムを除いた場合でも1.9%増加しました)。2011年上半期のコミッション及び手数料収入は、新規顧客数の伸びと保険の堅調な業績が起動力となり、前年同期比で1.3%の伸びを示しました。証券の手数料は、金融市場のボラティリティに不利な影響を受けました。ニースITプロジェクトを除く2011年上半期のコスト比率は、前年同期比で0.6%低下しました。一方ニースプロジェクトを除く費用は、同期間で2.5%増加しました。

上半期の**リスク関連費用**は、残高の48 ベーシス・ポイントとなり、引当金が高い水準だったにもかかわらず前年同期比で5.6%減少しました。カバー・レシオ(包括引当金も含む)は、前年同期比3.9%上昇し、109.8%に達しました。包括引当金を除いて、カバー・レシオは67.9%で、2010年の上半期と同水準でした。

2011年**上半期の営業利益**は、前年同期比で7.4%増の23億5,200万ユーロとなりました。

2 グループ内取引は修正済み(地域銀行がクレディ・アグリコル SAから受け取った配当を含む。)

1.2. – LCL

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2*	H1-11	Change H1/H1*
Revenues	980	(1.1%)	1,968	+1.5%
Operating expenses	(623)	(0.5%)	(1,235)	(1.2%)
Gross operating income	357	(2.1%)	733	+6.4%
Cost of risk	(75)	(8.7%)	(155)	(13.4%)
Operating income	282	(0.1%)	578	+13.4%
Net income Group share	184	(1.9%)	380	+11.9%

*2011年第1四半期より、支払い経費として適用していた金額を収益へ再分類。

上半期にLCLは、堅調な事業推進力とリスク関連費用の減少に支えられて、良好な業績を達成しました。2011年上半期の**純利益グループ帰属分**は、前年同期比で11.9%増加し、3億8,000万ユーロとなりました。

2011年上半期の**収益**は、前年同期比で1.5%増の19億6,800万ユーロに増加しました。これは主にコミッション及び手数料収入、特に損害保険のコミッションと住宅ローン及び中小企業ローンの手数料増加によるもので、2011年上半期には前年同期比でそれぞれ7.5%、32.2%増加しました。市場の条件の悪化による資金コスト高にもかかわらず、クレジット事業の回復力により、金利差益も引き続き有利な傾向を維持しました。

営業費用は厳しく抑えられて、前年同期比で第2四半期は0.5%、上半期では1.2%減少しました。

2011年上半期の**営業総利益**は、前年同期比で6.4%増の7億3,300万ユーロとなりました。

2011年上半期の**リスク関連費用**は13.4%減と急激に低下しました。不良債権比率は2.4%で、前年同期比で0.4%低下しました。カバーレシオ(引当金を含む)は既に高水準でしたが、2011年6月30日現在3.8%上昇し、76.1%に達しました。また商業用ローンでは、96.7%に達しました。

事業推進力は引き続き強く、ビジネス指標も有利な傾向を辿りました。商品の幅も、支払い、振替を電話またはオンラインで行うことのできる新たなソリューションであるクウィクソー(Kwixxo)や、スモールビジネスを対象とした「Compte à Taux Progressif PRO」の発売により広がりました。

LCLは、引き続き家庭や中小企業のためのファイナンスに積極的に関わりました。**ローン残高**は、ホーム・ファイナンスの勢いに牽引され、前年同期比で11.4%増加しました。この家庭向けセグメントでは需要が堅調なことから残高が17.5%増加、中小企業向けファイナンスでは残高が7.4%増加しました。

貸借対照表上の顧客預かり資産は対象商品が4倍に増えたことから、2010年上半期比で大幅な8.8%増となりました。全体的な顧客預かり資産も、同期間で4.2%増加しました。さらに、2011年4月の3億9,000万ユーロの債券発行は成功し、2011年6月の2件の新規社債発行も成功しました。

2.国際リテール・バンキング

2011年第2四半期の国際リテール・バンキングの業績結果は、ギリシャの経済状況の悪化、エンポリキ銀行のギリシャ財政支援計画への参加、インテサ・サンパオロから買収したイタリアの96の支店の決算を業績結果に組み入れたことにより、それらの影響を受けました。

2011年上半期の当事業部門の純利益グループ帰属分は、第2四半期の6億9,500万ユーロの損失を含む7億5,400万ユーロの損失となりました。

エンポリキを除く上半期の純利益グループ帰属分は、第2四半期の8,300万ユーロを含めて、1億6,300万ユーロとなり、2010年第2四半期比で18.8%増加しました。第1四半期にカリスペツィアの76支店を統合したことと、第2四半期にインテ・サンパオロから買収した96支店を統合したことで、収益は前年同期比で6.2%増加しました。同一条件の下での収益は、前年同期比で0.5%増加しました。営業費用は厳しく抑えられた結果、統合費用分(上半期は2,700万ユーロ)を修正後、2010年上半期比でわずかに1.1%増加しました。同一条件の下及び統合費用の再修正後の2011年上半期の営業総利益は安定し、預金に関わる費用の増加が特にギリシャの収益に影響を与えたにもかかわらず、前年同期比で僅か0.5%の減少にとどまりました。

エンポリキを除いて、主にイタリアの新規支店の統合によって、貸借対照表上の預金残高と貸付ローン残高間のバランスが保たれました。リスク費用は大幅に縮小しました。その縮小は地域により差はありますが、欧州では改善、北アフリカ、特にエジプトとモロッコで安定しました。エンポリキを除いて、上半期のリスク関連費用は1億8,600万ユーロとなり、2010年上半期比で9.0%減少、2011年第2四半期は前年同期比で8.2%の減少となりました。

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1	Change H1/H1*
Revenues	754	+2.5%	1,527	+4.7%	+6.2%
Operating expenses	(517)	-	(1,012)	+1.7%	+11.4%
Gross operating income	237	+8.4%	515	+11.2%	(2.2%)
Cost of risk	(437)	+3.3%	(755)	(2.4%)	(9.0%)
Operating income	(200)	(2.2%)	(240)	(22.7%)	+4.3%
Equity affiliates	27	+7.9%	55	(23.6%)	(23.6%)
Net income on other assets and change in value of goodwill	(359)	(14.1%)	(359)	(14.1%)	nm
Pre-tax income	(532)	(11.0%)	(544)	(17.2%)	(2.7%)
Tax	(197)	x3.8	(246)	x2.6	+4.1%
Net income (after tax) from discontinued activities	13	x4.0	14	+90.4%	+90.4%
Net income Group share	(695)	+8.0%	(754)	+1.9%	+3.2%

* エンポリキを除く

イタリアでは、厳しい経済環境においてもカリパルマ・グループが引き続き拡大し、その収益性が確認されました。第1四半期に、カサ・ディ・リスパルミオ・デラ・スペツィア(Carispe)とその76支店のネットワークの統合に成功した後、第2四半期に当グループは、インテ・サンパオロから買収した96支店を統合しました。それらの支店の殆どは、ロンバルディ、ラチウム、トスカニー、ヴェネジアの地域にあります。この買収取引は、16億ユーロのネット・キャッシュ・インフロー(インフローから貸付ローン残高を差し引いたもの)及び20万の新規顧客に寄与しました。その結果、ローン及び預金残高は、2011年6月30日現在でそれぞれ332億ユーロ、328億ユーロへと拡大しました。

こうした堅調な推進力により、上半期のカリパルマの収益は12.7%増加し、7億8,600万ユーロに達しました。172のイタリアの新規支店の統合による収益増加率は8.9%でした。同一条件の下での収益増加は、主にコミッション、手数料によるもので、当グループの資産運用(運用資産は15億ユーロの増加)と損害保険並びに信用保証保険のシナジーがその効果をもたらしました。このため収益はほぼ45%増加しました。

営業費用も、カリスペツィアとイタリアの新規支店の統合関連費用のために著しく増加し、第2四半期の1,800万ユーロを含めて、2011年の上半期は2,700万ユーロとなりました。上半期の営業費用は前年同期比で18.8%増加し、第2四半期の営業費用は同22.4%増加しました。しかしながら、同一条件の下で統合費用を除いた場合の増加率は、上半期は僅か前年同期比2.1%にとどまり、第2四半期も同0.7%の増加にとどまりました。

リスク関連費用は低めに抑えられ、上半期は貸付ローン残高の増加にもかかわらず1億800万ユーロにとどまりました。支払い不履行(Sofferenze)訴訟中の貸付ローン残高の割合は、市場平均以下にとどまり、市場平均の2.6%³に対し1.5%となりました。カリパルマの純利益グループ帰属分に対する寄与は、2011年上半期が8,000万ユーロ、2011年第2四半期が3,900万ユーロとなりました。

ギリシャでは、エンポリキは本年度の年初に開始したリファイナンス方針を続行しました。これは自らの資金調達源を増やし、それによりクレディ・アグリコルS.A.によるリファイナンスへの依存を削減するためです。

新規の預貯金を集めるために積極的な経営方針を採用したことにより、エンポリキは当グループによるリファイナンスのレベルを抑え、また預金残高の減少を抑えることができました。一般的には資金流入より流出額のほうが多かったものの、当行の2011年第2四半期の預金残高は安定しました。加えて、エンポリキのマーケット・シェアは1月1日から6月30日の間に0.3%ポイント増加しました。これは、ユーロMTNやCD(譲渡性預金証書)の発行など他の資金調達を開発することによって、達成することができました。またエンポリキは、定期預金の利率をさらに高くすることにより預金残高の減少を食い止め、2011年7月には、欧州中央銀行から5億ユーロの公的資金供給を受けることができました。

2011年の上半期の収益は3億6,600万ユーロとなり前年同期比0.4%の増加にとどまりました。この軟調な業績は、ギリシャの経済の悪化と、銀行間で預金集めの競争が激化したことでリファイナンス費用が増加したことを反映しています。営業費用は上半期が前年同期比で18.4%減少しましたが、これは主に2010年の第2四半期に早期退職者に対する退職金の例外的項目として4,400万ユーロが計上されたことによるものです。費用削減の結果、営業総利益は増加しました。

2011年上半期のリスク関連費用は、回復のための措置がとられ、その効果が出ているにもかかわらず、2010年上半期と同様の5億6,900万ユーロでした。これには、第2四半期の3億4,800万ユーロが含まれています。但し、この数字にはギリシャに対する財政支援計画へのエンポリキ銀行の負担分が含まれており、ギリシャ国債のポートフォリオの例外的減損費用が7,100万ユーロでした。これは総エクスポージャーの21%に相当します。この額を修正した場合でもリスク関連費用は高い水準にあります。2010年度上半期比では12.6%減となりました。税額も1億4,800万ユーロの繰延税金資産の取崩しの影響を受けました。なお、繰延税金資産は2010年12月31日現在で2億7,800万ユーロに達しました。

クレディ・アグリコルS.A.に計上されたエンポリキへの出資の減損費用3億5,900万ユーロを除いて、クレディ・アグリコルS.A.の連結決算に対するエンポリキの純利益グループ帰属分は2011年上半期が5億5,700万ユーロの損失となりました。これには第2四半期の同4億1,800万ユーロが含まれています。

³出典 :ABI 月刊アウトLOOK 2011年6月

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Revenues	996	+0.3%	1,999	+1.2%
Operating expenses	(427)	(1.6%)	(848)	(1.8%)
Gross operating income	569	+1.7%	1,151	+3.4%
Cost of risk	(360)	+7.3%	(677)	+2.1%
Operating income	209	(6.7%)	474	+5.4%
Equity affiliates	4	+68.0%	7	+28.1%
Pre-tax income	213	(6.0%)	481	+5.5%
Net income Group share	138	+8.8%	298	+17.6%

2011年の上半期は、専門金融サービス部門は引続き高収入をあげました。

当部門は、営業効率を高めるため策定された積極的な経営方針を追求しました。その結果、総収入は2010年の上半期比で1.2%増加しました。費用は、同年同期比で1.8%減少しました。

2011年上半期のリスク関連費用は、引当て計上の基準改正により前年同期比で2.1%増加しました。営業総利益の改善は、リスク関連費用の増加を大幅に上回りました。

全般では、2011年上半期の当事業部門の純利益グループ帰属分は、前年同期比で17.6%増の2億9,800万ユーロとなりました。

消費者金融による寄与分は、景気の低迷に影響を受けませんでした。当事業の純利益は、2011年上半期は、前年同期比11.5%増の2億7,700万ユーロとなりました。

当セグメントの事業は、減速の兆しを見せ、残高の伸びは前年同期比で1.1%にとどまりました。フランスとイタリアでは、第2四半期に経済成長が鈍化したのに伴い、個人の家計消費が落ち込みました。フランスでは、消費者信用法の最新規定の実施と省エネ対象の減税措置が終了したため、2011年の第2四半期の取引高が減少しました。一方、自動車ファイナンス部門は堅調でした。それとは対照的に、イタリアでは、自動車市場が縮小しました。これらの異なる要因は、二国の消費者金融に悪影響を及ぼしました。2011年6月30日現在のフランスの消費者金融残高は301億ユーロで、2010年6月末現在比0.5%の増加となりました。イタリアは、280億ユーロとなり、前年6月末現在比で1.7%減少しました。その他の国の同残高は、ドイツ、モロッコ、スウェーデンの子会社による堅調な伸びに牽引されて、前年同期比6.0%増加し、消費者金融残高全体に203億ユーロ寄与しました。一方で、ギリシャの子会社は大幅に縮小しました。

景気の伸びが弱い中で、当事業部門は営業効率を向上させることができました。2011年の上半期には、金利差益を積極的に維持することに努めた結果、収益は前年同期比で0.8%増加しました。一方、費用は、0.8%減少しました。上半期のコスト比率は前年同期比で0.6%減少し、39.7%になりました。

2011年上半期のリスク関連費用は、前年同期比で僅かに1.5%増加しました。ベース・ポイントでは、リスク関連費用はほぼ安定しており、2010年上半期の226ベース・ポイントに対し、2011年上半期は229ベース・ポイントとなりました。この変化の主な要因は、引当て計上の基準改正によるものです。

リース・ファイナンス及びファクタリングは、それぞれが異なる業績傾向を見せましたが、結果的に純利益が僅かに減少し、2010年第1四半期比で1.7%減の4,500万ユーロとなりました。

リース・ファイナンスの業績結果は、厳しい経営環境にマイナスの影響を受けました。フランスでは、残高は2011年6月30日現在で前年同期比8.0%増の156億ユーロに達し、ビジネスの減少にもかかわらず、業績を支えました。国際事業の業績結果は、ギリシャの脆弱な経済状況によって2011年の第2四半期にエンポリキ・リーシングのリスク関連費用として計上した2,000万ユーロのために、マイナスの影響を受けました。

逆にファクタリングは第2四半期に優れた業績結果を生みました。当事業はフランス及び国外で、2010年の低水準から大幅に拡大しました。2011年6月30日現在、売り掛け債権 (factored receivable) は、322億ユーロに達しました。そのうちフランスは、2010年6月30日現在の274億ユーロに対し、今上半期は190億ユーロでした。2011年上半期の仲介比率は前年同期比6.7ポイント減少し、63.4%となりました。この減少は、費用の減少及び極めて効果的なリスク管理の組み合わせによるものです。

全体としては、2011年上半期の収益はファクタリングの事業の堅調な伸びが推進力となり、前年同期比で3.5%増加しました。費用は抑えられ、収益よりも増加率は低い水準となりました。コスト比率は58.5%で、2010年上半期と同様でした。リスク関連費用は引き続き厳しく抑えられ、エンポリキ・リーシングを除いて、2010年上半期比33.3%減少しました。

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

2011年上半期中の当事業部門は、難しいマーケット環境においてその回復力を確認することができました。当グループにとって、当事業部門は強力な重要な収益源となっています。

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Revenues	1,334	+2.7%	2,646	+6.6%
Operating expenses	(626)	(4.4%)	(1,240)	(2.4%)
Gross operating income	708	+9.8%	1,406	+16.0%
Cost of risk	(124)	nm	(110)	nm
Operating income	584	(7.3%)	1,296	+8.3%
Equity affiliates	2	nm	5	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets and changes in the value of goodwill	-	nm	-	nm
Pre-tax income	586	(7.4%)	1,301	+8.7%
Net income Group share	347	(11.5%)	790	+6.6%

2011年6月30日現在、運用資産は前年同期比3%増の1兆660億ユーロでした(二重計上分を除くと、8,600億ユーロ)。上半期中の新規運用資産の資金流入純額は168億ユーロに達しました。

2011年上半期の当ビジネス部門の純利益グループ帰属分は、満足のいく業績を反映して前年同期比で6.6%増加しました。収益の内容は、保険、特に損害保険部門の業績が好調だったことから6.6%増加しました。同時に、営業費用は2.4%減の12億4,000万ユーロでした。この減少額のほとんどは資産運用に関わる費用であり、2010年上半期比で12.7%低下しました。費用にはアムンディの再編費用5,700万ユーロが含まれています。営業総費用は、16%増加して14億600万ユーロに大幅に増加しました。リスク関連費用は2010年上半期の1,700万ユーロに対して1億1,000万ユーロでした。この増加はギリシャの支援計画にクレディ・アグリコル・アシュアランスが参加したことによるものです。

全体では、当事業部門の純利益グループ帰属分に対する寄与は7億9,000万ユーロでした。

アムンディと、2011年7月1日にアムンディが買収したBFT（Banque de Financement et de Trésorerie）の資産運用を含む**資産運用部門**では、厳しいマーケット環境の中でも事業は拡大を続けました。運用資産は2010年12月31日現在の7,103億ユーロに対し、2011年6月30日現在7,122億ユーロに達しました。この増加は、17億ユーロの運用資産新規純増分、マーケット要因のプラス分が34億ユーロ、マイナスの為替差損による影響額32億ユーロによるものです。マネー・マーケット商品からの流出額（上半期は48億ユーロ）は、長期資産の新規流入純額の650億ユーロによって十分に相殺されました。フランス及び国外の機関投資家と従業員積立によって資金流入は増加しました。

同時に、アムンディは競争力を強化しました。2011年6月末現在、アムンディはフランス国内における投資信託のマーケット・シェアを2010年の12月31日現在の24.7%から25.2%に拡大しました。（出典：2011年6月、ユーロパフォーマンスNMO。範囲：マニフェスト、特定ファンドを除くフランスを支払い場所とするオープンエンド型ファンド）。アムンディは、欧州、中東、アジアにおいて幾つかの入札に成功することで、その地位を強化しました。

全体では、上半期の純利益グループ帰属分は前年同期比で25.9%増加し、1億8,000万ユーロに達しました。収益は回復力を示し、2011年上半期の減少は2.7%にとどまりました。これは、マーケットによって左右される運用実績ベースのコミッションの減少にもかかわらず、一定の管理手数料が4%増加したことによります。同時に、営業費用は合併によるシナジー効果を反映して、12.7%と大幅減少しました。コスト比率は、2010年上半期同様54.7%と優れた水準になりました（2010年上半期の5,700万ユーロと2010年第2四半期の4,100万ユーロの業務再編費用は除く）。

上半期の**資産運用サービス部門**は、素晴らしい業績をあげました。全体として、堅調な事業開発がマネー・マーケット・ファンドからの資金流出を相殺したため安定しました。預かり資産は2010年12月31日現在の2兆3,790億ユーロから2011年6月30日現在の2兆3,990億ユーロに増加と、前年同期比で3.1%の増加を示しました。2011年上半期のフランス国外の預かり資産は5%増加しました。預かり総資産額は、前年同期比で4.5%減少し、2011年6月30日現在1兆760億ユーロでした。

厳しい経済状況にもかかわらず、満足のいく業績結果となりました。収益と営業総利益はほぼ安定しており、2011年上半期は前年同期比でそれぞれ0.3%、1.6%増加しました。費用は厳しく抑えられて、2010年上半期比で0.3%低下しました。コスト比率は、業界の中でも最低の水準を維持することができ、2010年上半期より0.3%低い70.2%となりました。当セグメントの純利益グループ帰属分はほぼ安定し、2011年上半期は6,400万ユーロでした。

プライベート・バンキング部門では、上半期の新規資金流入は純増で23億ユーロに達しました。このうち約半分が、国外の顧客からの資金であり、16億ユーロの為替差損の影響を完全に相殺できなかったものの、順風なマーケットに助けられ14億ユーロの収益貢献がありました。2011年6月30日現在、運用資産（地域銀行は除く）は2010年上半期比で7.6%増の1,311億ユーロでした。2011年6月末現在のフランス国外の運用資産は、前年同期比で6.7%増の719億ユーロでした。

2011年上半期の純利益は、前年同期比で5.7%増の7,200万ユーロに達しました。運用ファンドの増加がコミッション及び手数料収入の増加につながり、収益が伸びたため（前年同期比7.8%増）に、この堅調な業績結果を創出しました。2011年上半期のコスト比率は、73.9%でした。

保険部門では、2011年上半期の保険料による収入は148億ユーロとなりました。

フランスにおける生命保険は回復力を見せました。2011年上半期の保険料による収入は108億ユーロで、保険市場全体の4減少率が11%であったのに対し、同一条件のもとでの減少率は10%でした。2011年上半期の運用ファンドは総額で前年同期比5%増加し、2,230億ユーロでした。これにはユニットリンク型保険が含まれており、2011年6月30日現在の運用ファンドの19%を占めています。

同一条件の下、2011年上半期のフランスの生命保険以外の保険料収入は12%増加し、保険市場の増加率の平均をはるかに上回りました。上半期の保険料収入は、保有契約高の伸び（前年同期比7%増）と2009年2010年に支払い請求件数が高い水準にあったために保険料金が引き上げられたことにより、14億ユーロに増加しました。

国際的にみると、当事業はイタリアでは2010年6月と2011年6月の1年間に26%縮小したマーケットにおいても極めて良好な業績を達成し、引き続き安定していました。ルクセンブルグでは、プレミアム商品の競争が激化したことから、当事業は減速しました。一方ポルトガルでは、経済、金融の状況の悪化が深刻な影響を及ぼしました。2011年上半期の国際的なオペレーションでの保険料収入は総額で20億ユーロを僅かに下回り、前年度から大幅に減少しました。

フランスの信用生命保険は、引き続きLCLとのパートナーシップを開発し、新たな個人保険商品ラインを発売したことから、力強い伸びを見せました。国際的には、イタリアとドイツの自動車ローン保険市場が減速しました。全体では、2011年上半期の当ビジネスの保険料収入は15%増の5億3,000万ユーロに達しました。

上半期の保険部門の営業総利益は前年同期比で21.3%増と目覚ましい増加を見せました。生命保険のファンド運用の伸びが続いていることや、損害保険の保険金支払い請求件数が減少したこと、費用の厳格な管理などが効果をもたらしました。2011年上半期のコスト比率は、前年同期比で3.2%改善し、24.9%に低下しました。

2011年上半期の保険事業部門の純利益は、4億7,300万ユーロで、前年同期と比べ安定しました。第2四半期は、純利益は、クレディ・アグリコル・アシュアランスがギリシャ支援計画に参加したことによる例外的費用計上により影響を受けました。その額はリスク関連費用の-1億3,100万ユーロです。

さらに、2010年12月31日現在の財務諸表に基づいたEIOPAストレス・テストにより、クレディ・アグリコル・アシュアランスが現在の資本金でソルベンシー II の要件を十分に満たしていることが確認されました。

⁴FFSA データ

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2011年上半期のCA-CIBは、2011年3月に発表された戦略プランの目標を達成した結果となりました。

2011年第2四半期の脆弱なマーケットにもかかわらず、継続事業では負債発行とローン・ヘッジの再評価による修正後、純利益グループ帰属分は3億2,100万ユーロとなりました。ファイナンス事業の収益は、前期までと同様、引き続き高い水準を維持することができました。資本市場部門の事業は、マクロ経済が低迷する中で縮小しましたが、費用は引き続き抑えられました。特殊税効果を除き、費用は2010年第2四半期よりも僅かに減少しました。2011年上半期のコスト比率は約60%を維持しました。リスク関連費用は、中東地域のための引当金が含まれていた2011年第1四半期のリスク関連費用に引き続き、イエメンのための引当金計上によりマイナスの影響を受けました。

2011年第2四半期の非継続事業は、4,800万ユーロの損失となりました。

(in millions of euros)	Q2-11 Ongoing activities*	Change Q2/Q2 Ongoing activities*	H1-11 Ongoing activities*	Change H1/H1 Ongoing activities*
Revenues	1,361	(5.5%)	2,917	(1.6%)
Operating expenses	(858)	+1.2%	(1,759)	+6.5%
Gross operating income	503	(15.0%)	1,158	(11.7%)
Cost of risk	(63)	+65.8%	(136)	(26.5%)
Net income Group share	321	(19.9%)	709	(13.5%)

* 負債発行とローン・ヘッジの再評価調整後

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Revenues	646	(1.8%)	1,286	(1.7%)
Operating expenses	(235)	+7.8%	(457)	+8.8%
Gross operating income	411	(6.6%)	829	(6.7%)
Cost of risk	(51)	x2.0	(130)	(17.2%)
Operating income	360	(13.1%)	699	(4.5%)
Equity affiliates	35	(11.0%)	69	(4.4%)
Net income on other assets	(9)	nm	(8)	nm
Pre-tax income	386	(15.0%)	760	(5.6%)
Tax	(116)	(11.7%)	(259)	+14.5%
Net income	270	(16.4%)	501	(13.4%)

ファイナンス事業の第2四半期の収益は前期までとほぼ同水準で、前年同期比1.8%減の6億4,600万ユーロとなりました。

第2四半期のストラクチャード・ファイナンスの収益は、前年同期比でほぼ3%増加し、3億9,300万ユーロとなりました。ストラクチャード・ファイナンスの事業は、2010年に全てのセグメントでビジネスが堅調だったことに引き続きその恩恵を受けました。さらに、コモディティー・トレードのファイナンスは、主に原油価格の上昇により目覚ましい業績を達成しました。また CA-CIB は、プロジェクト・ファイナンスの活況により、欧州、中東、アフリカ地域で第15位から第3位へと上がりました。

商業銀行部門は、金利差益縮小に対する圧力が強くなっているにもかかわらず、高い水準の収益を維持することができました。2011年第2四半期の収益は、2010年第2四半期比17%減、2011年第1四半期比6%増の2億4,700万ユーロに達しました。また、CA-CIBは、シンジケーションにおいてフランスで第1位、中南米では6位から1位に、東欧では7位から1位にその順位を上げることができました。

2011年第2四半期のローン・ヘッジは、600万ユーロのプラス収益を生みました。

2011年第2四半期のリスク関連費用は、5,100万ユーロに達しました。これは顧客貸付ローン残高の17ベーシスポイントに相当します。リスク関連費用には、主にイエメンのための引当金が計上されました。2011年6月30日現在、引当金は150億ユーロに達しました。

2011年第2四半期のファイナンス事業の純利益は2億7,000万ユーロでした。

⁵出典: トムソン・ファイナンシャル

⁶出典: トムソン・ファイナンシャル

資本市場部門及び投資銀行部門

不安定なマーケット環境の中、資本市場部門及び投資銀行部門は収益が減少しました。第2四半期は前年同期比12.4%減の8億300万ユーロでした。

債券関連部門は、債券市場の新たな不安定要因による影響を受けました。業績好調であった第1四半期の後に、金利デリバティブと債券事業は特にその影響を受けました。一方、対顧客ビジネスの収益は、良好な水準を維持しました。2011年の収益は前年同期比で3%増の3億7,100ユーロに達しました。

株式部門は、ブローカレッジ・ビジネスの急激な低迷による影響を受けました。欧州、アジアの取引高の減少がこのセグメントのビジネスにマイナスの影響を及ぼしました。一方、第2四半期の投資銀行部門は、優れた業績を達成し、特にプライマリー株式ビジネスが堅調でした。CA-CIBは、香港証券取引所のメイン・ボードでプラダ S.p.A.の新規株式公開を成功させました。さらに、CA-CIBとCITICSの二社間において、CA-CIBからCITICSに対し、CLSAとシュブルー(Cheuvreux)、それぞれの株式の19%を譲渡することを合意しました。

第2四半期の社債発行の再評価による収益は、8,200万ユーロでした。

欧州のソブリン債危機によって生じた信用危機状況下にもかかわらず、VaR(最大損失予想額)は抑えられて、最低水準まで下がりました。

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Revenues	803	(12.4%)	1,681	(2.7%)
Operating expenses	(623)	(1.0%)	(1,302)	+5.7%
Gross operating income	180	(37.3%)	379	(23.6%)
Cost of risk	(12)	(0.0%)	(6)	(77.4%)
Operating income	168	(39.0%)	373	(20.5%)
Equity affiliates	(1)	nm	(1)	nm
Net income on other assets	0	nm	2	nm
Pre-tax income	167	(38.8%)	374	(20.2%)
Tax	(56)	(38.7%)	(125)	(16.7%)
Net income	111	(38.8%)	249	(21.8%)

非継続事業

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Revenues	(24)	(80.2%)	3	nm
Operating expenses	(27)	+0.0%	(50)	(3.8%)
Gross operating income	(51)	(65.5%)	(47)	(86.8%)
Cost of risk	(21)	(72.7%)	(78)	(64.1%)
Pre-tax income	(72)	(68.0%)	(125)	(78.1%)
Tax	23	(62.9%)	42	(76.9%)
Net income	(49)	(69.9%)	(83)	(78.7%)

非継続事業による影響は引き続き抑えられて、2011年第2四半期の純損失グループ帰属分は4,800万ユーロでした。CDO、ABS並びにCLOの収益は、マイナス300万ユーロでした。それらに関連するリスク費用は2,100万ユーロでした。コリレーション事業の影響も安定化計画に沿って抑えられ、3,200万ユーロの損失にとどまりました。エキゾチック・エクイティ・デリバティブは、同収益にある程度プラスの影響を及ぼし、第2四半期は1,000万ユーロに達しました。

6 コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Revenues	43	nm	(275)	(16.5%)
Operating expenses	(252)	(11.2%)	(462)	+2.3%
Gross operating income	(209)	(30.7%)	(737)	(5.6%)
Cost of risk	(45)	x4.8	(36)	+69.9%
Operating income	(254)	(18.3%)	(773)	(3.7%)
Equity affiliates	-	nm	1	nm
Net income on other assets	-	nm	(1)	nm
Pre-tax income	(254)	(7.9%)	(773)	(15.8%)
Net income Group share	(168)	(14.2%)	(610)	(18.2%)

2011年第2四半期の収益はプラスとなり、2010年第2四半期のマイナス1,800万ユーロに対し、4,300万ユーロの黒字に達しました。これには、財務戦略管理による高い収益が含まれています。財務戦略管理では、インフレに連結した資産の収益性が大幅に上昇したことが収益増加につながりました。配当収入も増加し、インテサ・サンパオロからの配当は4,900万ユーロでした。一方、関連会社のファイナンス費用は増加しました。

2011年第2四半期の営業費用は、経常外費用が含まれていた2010年第2四半期に対し、11.2%減少しました。

2011年第2四半期の純利益グループ帰属分は、2010年第2四半期の損失1億9,600万ユーロに対し、1億6,800万ユーロの損失となりました。

上半期は、コーポレート・センターによる収益への寄与は改善しました。2010年上半期の損失3億2,900万ユーロが、2011年上半期には2億7,500万ユーロへと縮小しています。純利益グループ帰属分は、前年同期が7億4,400万ユーロの損失だったのに対し、6億1,000万ユーロの損失となりました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

クレディ・アグリコル・グループの2011年上半期の収益は、2010年上半期比4.8%増の181億2,000万ユーロでした。2011年第2四半期の収益は前年同期比で2.0%以上を上回る91億4,200万ユーロでした。これらの四半期、半期の収益は、クレディ・アグリコル・グループにとって記録的な高水準に達したことになります。上半期の営業費用の増加は1.6%にとどまり、営業総利益は前年同期比で9.5%増の75億7,100万ユーロに達しました。この伸びは、全てのセグメントでの堅調な事業推進力を反映しています。

リスク関連費用は、5.3%減少し、フランスのリテール・バンキングとファイナンス事業におけるリスクの減少を反映しています。これにより、ギリシャ国内の子会社であるエンポリキのための引当金の大幅な増加と専門金融サービスのための引当金の僅かな増加を相殺することができました。リスク関連費用には、ギリシャの救済計画へのクレディ・アグリコル・グループの関与による費用2億200万ユーロも含まれています。

出資価額の変動は主に、2011年第2四半期に計上されたエンポリキへの出資減損費用3億7,900万ユーロによるものです。

課税額は、決算報告で2010年上半期と2011年上半期の間に31.0%増加しており、2011年第2四半期に計上されたエンポリキによる繰延税金資産の取崩しによる1億4,800万ユーロの経常外費用を含みます。

グループ全体では、2011年上半期の純利益グループ帰属分は24億800万ユーロで、前年同期比で30.4%増加しました。

(in millions of euros)	Q2-11	Change Q2/Q2	H1-11	Change H1/H1
Revenues	9,142	+2.0%	18,120	+4.8%
Operating expenses	(5,318)	(0.6%)	(10,549)	+1.6%
Gross operating income	3,824	+5.9%	7,571	+9.5%
Cost of risk	(1,592)	+13.1%	(2,792)	(5.3%)
Operating income	2,232	+1.3%	4,779	+20.4%
Equity affiliates	66	(33.3%)	130	(30.9%)
Net income on other assets	(7)	nm	(3)	nm
Change in the value of goodwill	(379)	(14.3%)	(379)	(15.0%)
Pre-tax income	1,912	+2.7%	4,527	+27.4%
Tax	(969)	+14.3%	(1,940)	+31.0%
Net income (after tax) from discontinued activities	17	nm	13	nm
Net income	960	(5.5%)	2,600	+25.1%
Net income Group share	881	(1.8%)	2,408	+30.4%

クレディ・アグリコル・グループSAの2011年第2四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders の“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定めるL. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 *et seq.* of the AMF General Regulationの規定に従って、クレディ・アグリコル・グループSAにより公開されています。

	Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31		
Denis Kleiber	+33 (0) 1 43 23 26 78		
Nathalie Auzenat	+33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+33 (0) 1 43 23 06 38
Colette Canciani	+33 (0) 1 43 23 45 93	Marie-Agnès Huguenin	+33 (0) 1 43 23 15 99
Sébastien Chavane	+33 (0) 1 57 72 23 46	Aurélie Marboeuf	+33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

Review procedures have been conducted by the statutory auditors on the half-year consolidated summarised accounts. The statutory auditors' review report is being issued.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IAS 34 accounting standards.